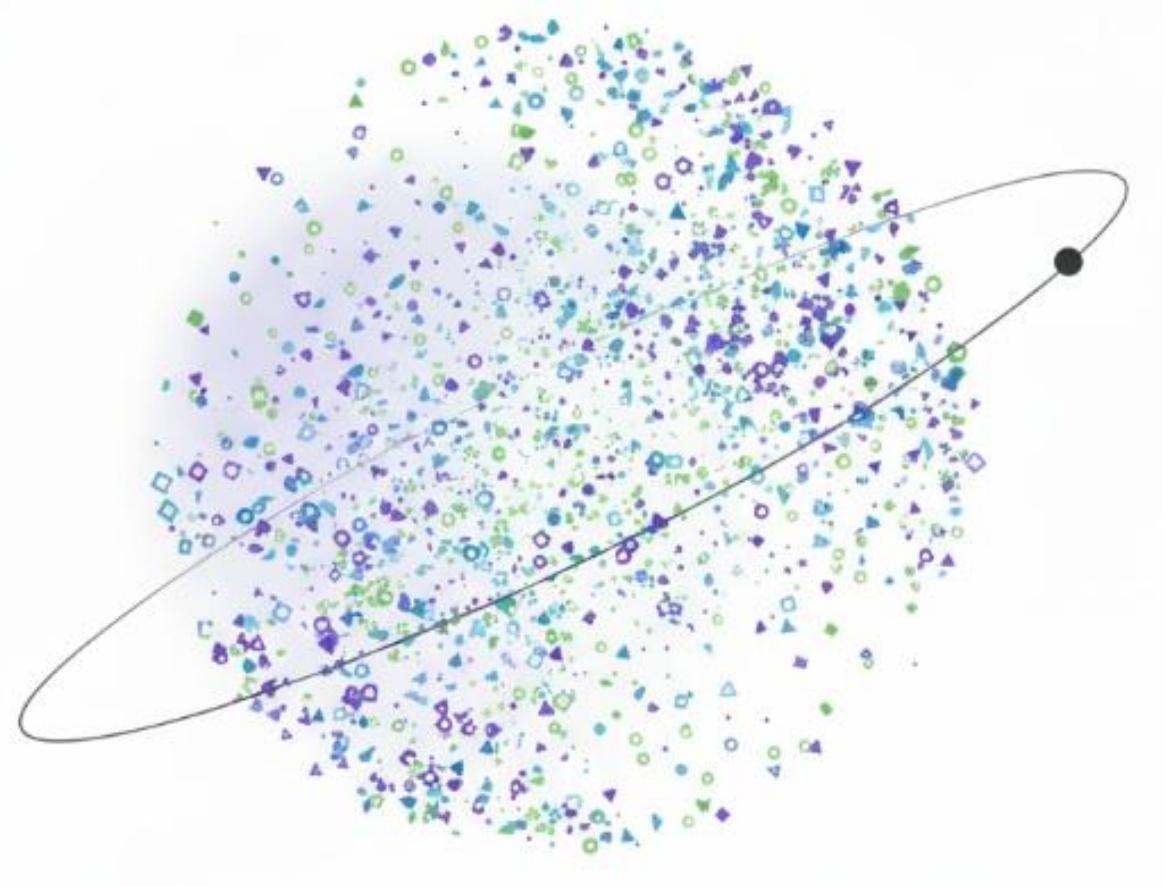


【2025年度】
日本GXグループ株式会社
会社説明資料

JGX
Japan GX group

日本GX総研
Japan GX Research Institute



GX × DX

DX is essential for Decarbonization.

会社概要

会社概要-沿革・基本情報-

基幹システム開発と脱炭素の専門チーム

2023.4 会社設立	会社概要		資格保有者	
2023.5 サステナブルウェブリリース、GXコンサル事業スタート	会社名	日本GXグループ株式会社 (Japan GX Group)	炭素会計アドバイザー	6名
2023.9 日本カーボンのクレジット取引所法人版リリース	設立	2023年4月14日	ISO14001審査員補	2名
2023.12 GXresearch(ポータルサイト)リリース	資本金	184,500,000円 ※新株予約権・資本準備金を含む	ISO27001審査員補	1名
2024.8 アビーム社とのGX-DXコンサルサービス開始	本社	東京都中央区八丁堀3-16-6東八重洲プレイスB1F	行政書士	1名
2025.1 日本カーボンのクレジット取引所モバイル版(個人向け)リリース	代表/株主	共同CEO 吉岡賢史 共同CEO 細目圭佑	伐木等特別教育 (チェーンソー)	4名
2025.2 GXコンサル事業を株式会社日本GX総合研究所に移管	役職員	12名 ※受入出向者2名を含む(東邦レオ)	AWS Certified Cloud Practitioner	2名
2025.4 Gxresearch(ポータルサイト)を大幅リニューアル	認証	ISO27001	AWS Certified Solution Architect Associate	1名
	特許 1	特許7598185 Jクレジットの個人等取扱活用方法	AWS Certified Developer Associate	1名
	特許 2	特許7648262 Jクレジットの予約権取引仲介装置	AWS Certified System Administrator Professional	1名
	完全子会社 日本GX総研	共同代表：小川/鳥井 東京都中央区八丁堀4-8-1八丁堀ファーストスクエア4F	AWS Certified Develops Engineer Professional	1名
			AWS Certified Security Specialist	1名
			AZ-900 Azure Fundamentals	1名

GHG排出量削減や資源循環を通して

環境と経済の両立を

目指すための変革です。

その結果は企業価値の向上に現れます。



環境価値と経済活動を両立させるためにはDXが必要

—— GX領域 ——

GX戦略・ロードマップ

環境負荷データの収集

GHG排出量の算定・削減

環境情報の開示

資源循環

GXへの取り組みが単なる制度・規制
対応に留まらず、コスト削減や新たな
価値創出に繋がる

GX×DX

—— DX領域 ——

データ収集の精緻化・効率化

排出量や削減効果の分析

DX活用した削減施策

会社概要-事業全体像-

DX専門の日本GXグループとGX専門の日本GX総研の双方でコンサルティング事業を展開。グループ全体でGX×DX領域における企業の課題解決を推進。



日本GXグループ株式会社

3つの事業活動

GXコンサル事業

GX戦略立案、排出量算定、クレジット創出

カーボンのクレジット創出支援やIR開示業務、GX人材派遣を行うアウトソーシング事業。専門知識と実務力を融合し、企業のGX活動を効率的に支援。

日本GX総研
Japan GX Research Institute

100%子会社
株式会社日本GX総合研究所

GX・DXコンサル事業

脱炭素に向けた業務効率化・DXによるGX推進

脱炭素経営を支援し、環境と経済の両立を実現する戦略的コンサルティング/出島型新規事業開発。大手企業のDX推進にGX要素を組み込み、事業活動による環境価値づくりを提案。

システム開発事業

大規模基幹システム刷新・開発、社内のDX化

大手企業の基幹システム開発を請け負う。自社開発のカーボンのクレジット取引所で培った技術力を活かし、GX関連APIや新規システム開発を推進。エンジニア中心に高品質な開発・運用を提供。

自社の強み

GX事業の立上げからシステムローンチまでの圧倒的なスピードと信頼性



従来のアナログ取引をDX化、国内初の本格的取引基盤を構築。個人売買と予約権取引の特許を取得し、信頼性と流動性を確保。2030年の脱炭素市場を支える基盤として自社で開発/運営。ビジネス要件定義からローンチまで半年で実行。



変化するGX制度・規制をシステム要件への確に反映



金融インフラシステムを創業半年でローンチ



システム開発力とGX知見の両方を持つ人材プール



カーボンのクレジット取引のDXを国内最速で社会実装

基幹システム開発と脱炭素の専門チーム



日本GX総研 Co-CEO

鳥井 要佑

Torii Yosuke

東京大学の研究員として環境分野の研究に取り組みながら、気候変動・資源循環・生物多様性の3側面の知見と社会実装力を企業に提供する

気候変動 / 資源循環 / 生物多様性

GX

日本GX総研 Co-CEO

小川 祐一郎

Ogawa Yuichiro

コンサルファームで製造業向けのDXコンサルタントに従事した経験と脱炭素アドバイザーの知見を活かして、現在は企業のGXロードマップやCC活用戦略策定・マネジメントを行う

PMO / 基幹システム開発 / CC創出・活用



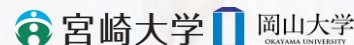
JGX Co-CEO

細目 圭佑

Hosonome Keisuke

宮崎大学准教授、岡山大学客員研究員の顔を持ちながら、官民学連携やアライアンス型共同事業開発を推進する、イノベーション・ブレイクスルー創造のプロフェッショナル

官民学連携 / 新規事業開発 / 一次産業



JGX
Japan GX group



JGX Co-CEO

吉岡 賢史

Yoshioka Kenji

大手金融機関・物流会社の基幹システム刷新経験とGXや金融知識を併せ持ち、脱炭素アプリ開発のバスターンダーとして業界を牽引

PMO / 基幹システム開発 / 炭素会計



ISO / 炭素会計 / ICTクラウド導入

JGX CFO

桑原 大輔

Kuwabara Daisuke

金融機関でアセマネ業務に従事後、ISO検証員の資格を有しながらシステム開発経験を積み、現在はGXとDX関連の会計処理・制度に関するアドバイザーを行う

DX

PMO / 基幹システム開発 / グリーンIT

JGX CTO

関 裕一朗

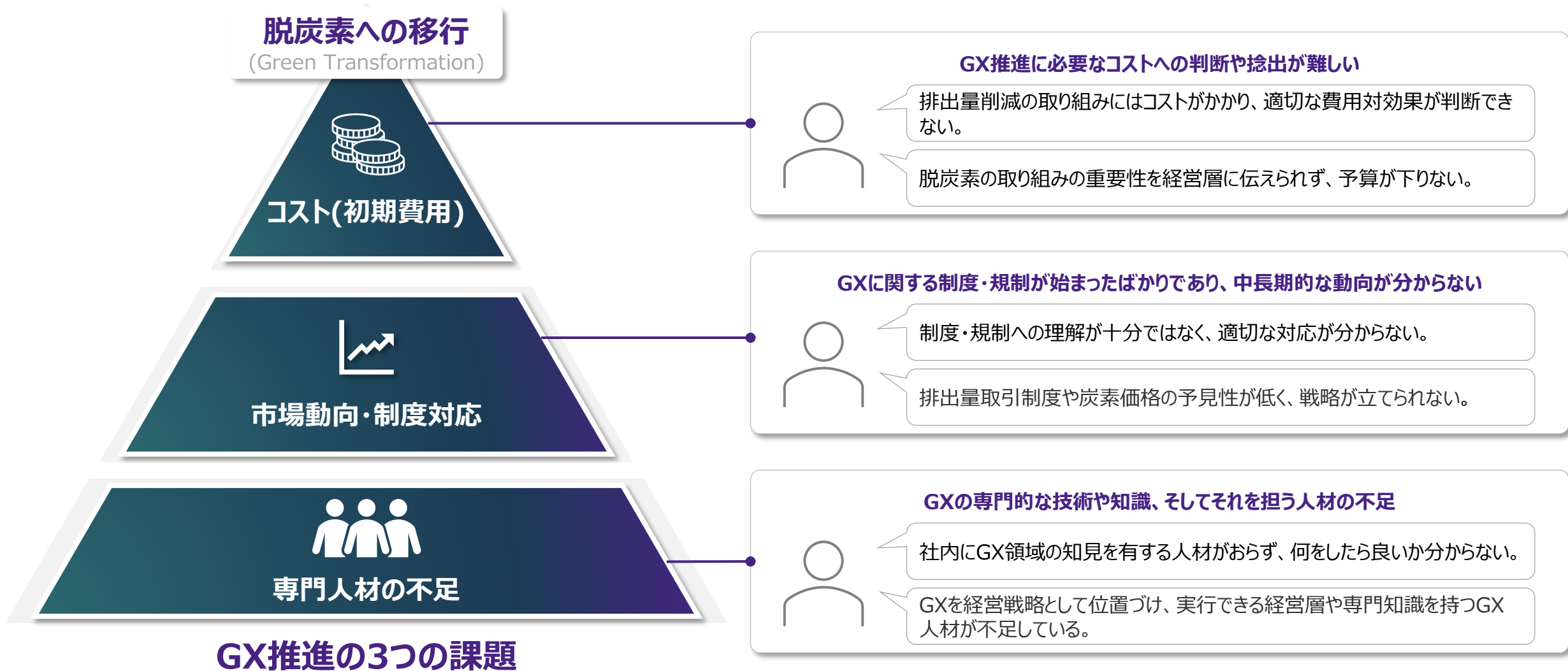
Seki Yuichiro

製造業・サービス業のITシステムクラウド化を10年経験し、現在はJCXの基盤開発・運用をマネジメントしながら大企業のDX戦略・ロードマップ策定を行う



GXコンサルティング

[日本GX総研]事業概要-GXに向けた企業・地方自治体様の課題感-



GX領域の知見を有したエキスパート人材が伴走支援

【マネージャー・プロジェクトリーダー】



目安単価：180万/人月～
経歴・経験：複数PMO、GX領域5年以上
スキル：PMO、GX戦略統括力、複合領域マネジメント力

【コンサルタント】



目安単価：150万/人月～
経歴・経験：GX領域プロジェクト経験、炭素会計
スキル：専門的知識、ステークホルダー連携、高度な提言力

【アナリスト】



目安単価：100万/人月～
経験：GX領域プロジェクト経験、炭素会計
スキル：環境・財務データ分析力、高品質なアウトプット作成

Point

お客様のご要望と案件毎の特徴から最適なエキスパート人材をアサイン

サービス形態

GXプロジェクト
PMOサービス

- GXに関する様々なプロジェクトの推進をPMOとして伴走支援。
- 新規脱炭素事業のPoCやFSなども実施可能。

GXアドバイザリー
サービス

- 月毎の定額契約によるアドバイザリーご支援。
- GXを進めるうえでの実施内容の整理やポイントでのご相談など幅広くご支援が可能。
- 何から始めたら良いか分からないご担当者様に最適。

凡例：

GX施策

ご支援メニュー

Green Transformation

戦略策定・目標設定・可視化・削減・開示を繰り返すことで、GreenTransformation、カーボンニュートラル達成を目指す

GX戦略策定

戦略・ロードマップ
策定支援

Scope3算定
支援

排出量削減

再エネ・省エネ
設備導入支援

削減施策
実行支援

環境情報開示

各種環境情報
開示支援

GX広告・PR
マーケティング支援

LCA算定支援

J-クレジット創出・活用

創出支援

売買取引支援

オフセット・活用支援

GX講義のご紹介 – Udemyにて公開中

GX領域について基礎知識が学べる動画を公開中。
企業様単位でのクーポンの発行や個別講義・講演会などのご相談もお受けします。

GXに関する基本的な知識が学べる

ビジネススキル > ビジネス戦略

【令和7年度最新版】これ1本で上司にも現場にも説明できる！GX入門：市場動向・トレンド～環境情報開示編

脱炭素経営・環境情報開示・サステナビリティ

5.0 ★★★★★ (6件の評価) 16人の受講生

作成者: 株式会社 日本GX総合研究所, 日本gxグループ 株式会社, Yuichiro Seki

① 最終更新日: 2025/8 ② 日本語



このコースをプレビュー

¥1,500 ¥5,600 73%OFF

🕒 この価格で購入できるのは、あと3日!

カートに入れる

今すぐ購入する

30日間返金保証 | 返金ポリシーおよび価格設定ポリシーについてはこちら。

このコースの内容:

- 2時間のオンデマンドビデオ
- モバイルとPCからアクセス
- 学習期間の制限なし
- 字幕
- 既存のオーディオに音声による説明が含まれている
- 修了証明書

コースの特徴

このコースは、企業経営者、サステナビリティ担当者、または脱炭素の取り組みに関心がある方に最適です。初心者でも安心して参加でき、脱炭素社会における企業の役割と責任を深く理解することができます。気候変動に対応した企業戦略を立案する力を身につけましょう。未来を見据えた経営の一步を、このコースで踏み出してください！

学べるスキル: 脱炭素トレンドの把握、企業の環境情報開示理解、脱炭素リスクと機会の理解、脱炭素経営知識の習得

✦ コース内容からAIが生成

詳しくはUdemy内で「GX」「カーボンクレジット」で検索

カーボンクレジットの仕組み、制度、創出の仕方が学べる

ビジネススキル > ビジネス戦略

【令和7年度最新版】これを見れば誰でもGXを推進できる！GX入門：カーボンクレジット創出編

脱炭素経営・カーボンクレジット・サステナビリティ

新規 0.0 ☆☆☆☆☆ (0件の評価) 0人の受講生

作成者: 株式会社 日本GX総合研究所

① 最終更新日: 2025/8 ② 日本語



このコースをプレビュー

¥5,600

カートに入れる

今すぐ購入する

30日間返金保証 | 返金ポリシーおよび価格設定ポリシーについてはこちら。

このコースの内容:

- 1時間のオンデマンドビデオ
- モバイルとPCからアクセス
- 学習期間の制限なし
- 修了証明書

シェア このコースをプレゼントする

クーポンを適用

コースの特徴

このコースは、企業経営者、サステナビリティ担当者、脱炭素の取り組みに関心がある方に最適です。初心者も歓迎で、脱炭素市場のビジネスチャンスを理解し活用するための知識を習得できます。持続可能な未来への第一歩を踏み出し、ビジネスの新たな可能性を発見しましょう！

学べるスキル: 脱炭素経営の基礎知識、国内外のカーボンクレジット理解、カーボンクレジット創出方法、ビジネスチャンスの活用方法

✦ コース内容からAIが生成

<https://www.udemy.com/course/7gxxg-mr/learn/lecture/51834041#overview>

GX×DXコンサルティング

脱炭素には DXが効く

日本GXグループは、自ら民間初のカーボンクレジット取引所を立ち上げ、システム開発・法令対応・産業介入に向き合ってきました。

取引所としてカーボンクレジットの創出/管理のみならず、数多くの上場企業様のGXの経営要請にお応えしてきた中で見えてきたことは、1つ。

中長期の企業価値向上を狙う脱炭素を動かす因子は「既存システムとの調和と効率化」にあるという事です。

産業構造の奥に眠る非効率を見抜き、「システム × 産業 × GX」の3つを同時に理解し、実装できるDX組織が2030年カーボンニュートラル中間目標を控えた日本社会には必要です。

脱炭素の現場で、泥臭くデータを掘り、コードを書き、社会を再設計する。それが日本GXグループの仕事です。

日本GXグループ株式会社は、創業後国内最速でカーボンクレジット取引をDXしました

環境活動を経済合理性から支えるインフラサービスをローンチ

- 相対・入札方式に代わるリアルタイム板取引で流動性向上 -



取引所システムの内製化開発・運用を経て感じた、 GXとDX両方のナレッジが脱炭素アプリの開発に必要な理由

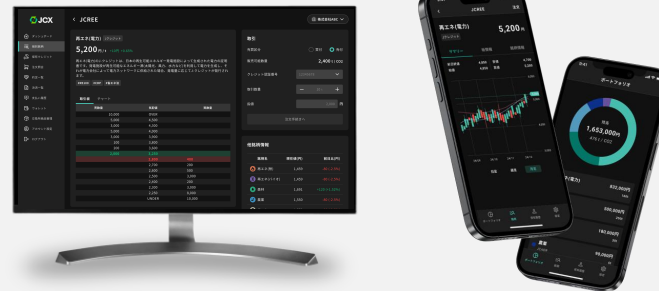
GX観点

変化が激しい脱炭素制度
規制に対する十分な理解

J-クレジット黎明期の需給動向
を踏まえた要件定義

外部決済システム会社との
合意形成、脱炭素の理解促進

法人向けの商品を個人向けに
拡大するリスク解消



GX/DX人材で結成された創業メンバー
だったからこそ、国内で初めてのカーボンの
クレジット取引所アプリのローンチに成功。

DX / IT観点

細かな変化に対応する
柔軟な開発体制・アーキ設計

数年後のトラフィック急増に耐え
うるインフラ設計

GX特性を踏まえた
他社との連携仕様設計

高品質、高セキュリティ
なシステム開発

日本GXグループの人材提供範囲

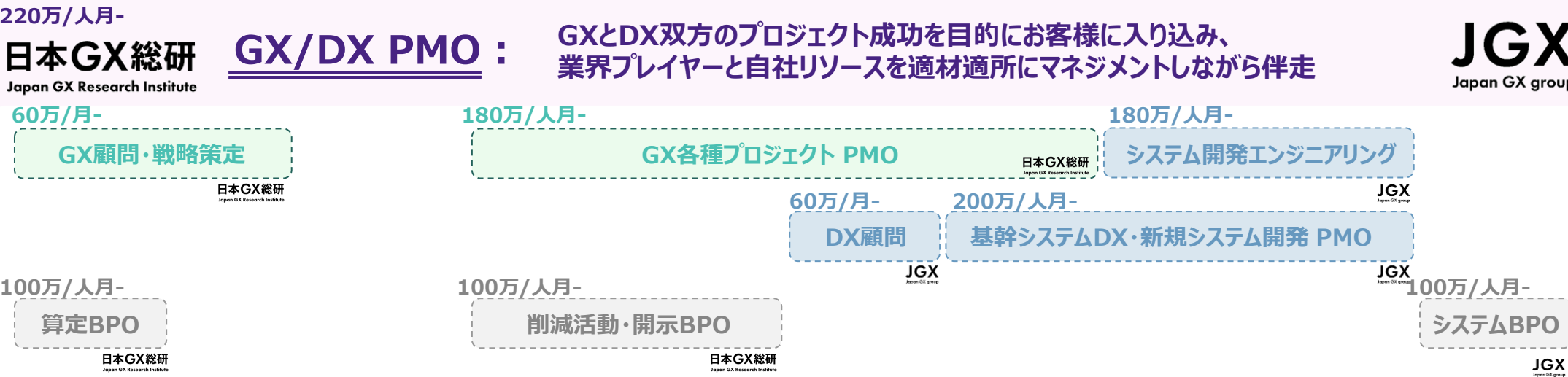
GXとDX推進力を阻む『人材の壁』。日本GXグループは戦略から実行までを統括するPMO機能で、人材の壁を乗り越えます。

←人材の壁→

工程	GX					DX				
	戦略策定		削減		開示	効率化		システム開発		
	可視化・分析	目標設定	ファイナンス	施策実施		施策検討	要件定義	設計	開発	運用
Key Players	アスエネ	野村総研	三菱UFJ銀行	Panasonic	GXコンシェルジュ	BCG	アクセンチュア	NTTデータ	富士通	Canon ITSOL
	zeroboard	三菱総研	三井住友銀行	フェイガー	blue.green	マッキンゼー	アビーム	SHIFT	SCSK	日立製作所
	e-dash	EY	みずほ銀行	バイウィル	シエルパ&カンパニー	デロイト	ペイカレント	IBM	NEC	大塚商会

⇒ ⇒ ⇒ 日本GXグループ & 日本GX総研による、業者切り替え不要な一気通貫型サポート ⇒ ⇒ ⇒

JGXの
人材提供
範囲



GX-DXシステム開発PMO事業

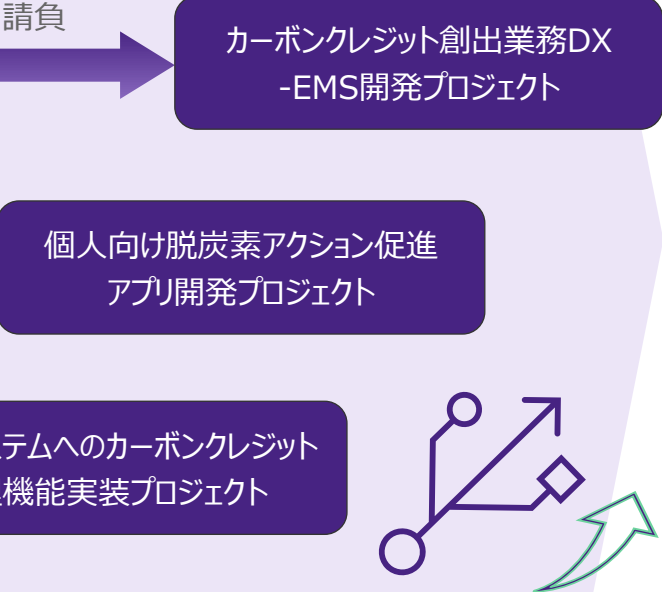
社内エンジニアによる内製によりJCX基本機能をFY2023~2025で実装完了。
現在はJCXのプラットフォームとしての機能を活かした共同開発GX-DXプロジェクトの請負事業を実施。



特許7598185 JCクレジットの個人等取扱活用方法
特許7648262 JCクレジットの予約権取引仲介装置



システムPMO請負事業（例）



支援カテゴリ

GX/DX PMO


システム開発エンジニアリング

支援スコープ

GX					DX			
戦略策定		削減		開示	効率化		システム開発	
可視化・分析	目標設定	ファイナンス	施策実施		施策検討	要件定義	設計	開発


相談背景

課題1 電力会社グループCFO




各社の電力契約がバラバラ。グループ全体でどれだけ無駄があるのか、全く見えない

課題2 電力会社グループGX推進担当役員



再エネ導入やCO2削減が各社任せ。グループとしての投資対効果が悪く、戦略が描けない。


課題3 電力会社グループCIO



各社の監視システムが老朽化・サイロ化。全社的な需給調整（DR=デマンドレスポンス）に対応できない。


支援内容

グループ全体GX構想策定




各社の電力使用状況と契約を可視化。グループ全体の電力最適化に向けたロードマップと目標（KGI/KPI）を設定

統合EMSプラットフォーム要件定義




各社の電力データを一元管理し、AIで需要予測や最適運用を行う統合エネルギー管理システム（EMS）の要件を定義

システム構築導入PMO




要件定義に基づき、統合EMSの構築と各拠点への導入をPMOとして一気通貫で支援。DR実証なども実施。


具体的な効果



グループ全体の電力調達コストを年間8%削減



ピーク電力需要を15%カットし、DR対応力を強化



グループ横断で電力データ活用基盤が確立し、GX戦略の推進が加速

支援カテゴリ

GX/DX PMO

システム開発エンジニアリング

システムBPO


DX顧問

支援スコープ

GX					DX			
戦略策定		削減		開示	効率化		システム開発	
可視化・分析	目標設定	ファイナンス	施策実施		施策検討	要件定義	設計	開発


相談背景

課題1 大手製造会社CIO




プラットフォームの刷新タイミングで、IT部門でもグリーン化を謳ってきたい。

課題2 大手製造会社情報システム部長



DXを推進するうえで、基幹含めて多くのシステムがオンプレに残ったままとなっている。


課題3 大手製造会社 プラットフォームチームリード



クラウド化の良さを、単純な業務効率向上だけでなく、GXの観点から全社に啓蒙したい。


支援内容

アーキテクチャアセスメント
全社プラットフォーム
指針検討




全社アーキテクチャをベースに、ヒアリングを経て課題・リスクをアセスメント。その後優先順位を設けて各種課題解決のロードマップを策定

基幹システムの
グリーンアーキテクチャ化




原則クラウド・SaaS利用を主に、利用電力の最小化をプライオリティに据えたアーキテクチャを考案し、設計から運用までを実施

GX/DXに関する
勉強会の実施




全社のクラウド化を促進し、GXを普及するために、お客様の若手社員チームを立ち上げ、事例共有会を定期的に運営・実施


具体的な効果



2年間でクラウド移行
および新規開発件数を3倍に



クラウド移行したシステム運用における
CO2排出量0MT-CO2の達成



堅牢なりモート開発・保守環境を実現
ヒトの移動を抑えCO2排出量を抑制